

トルコ：政策金利を引き下げ

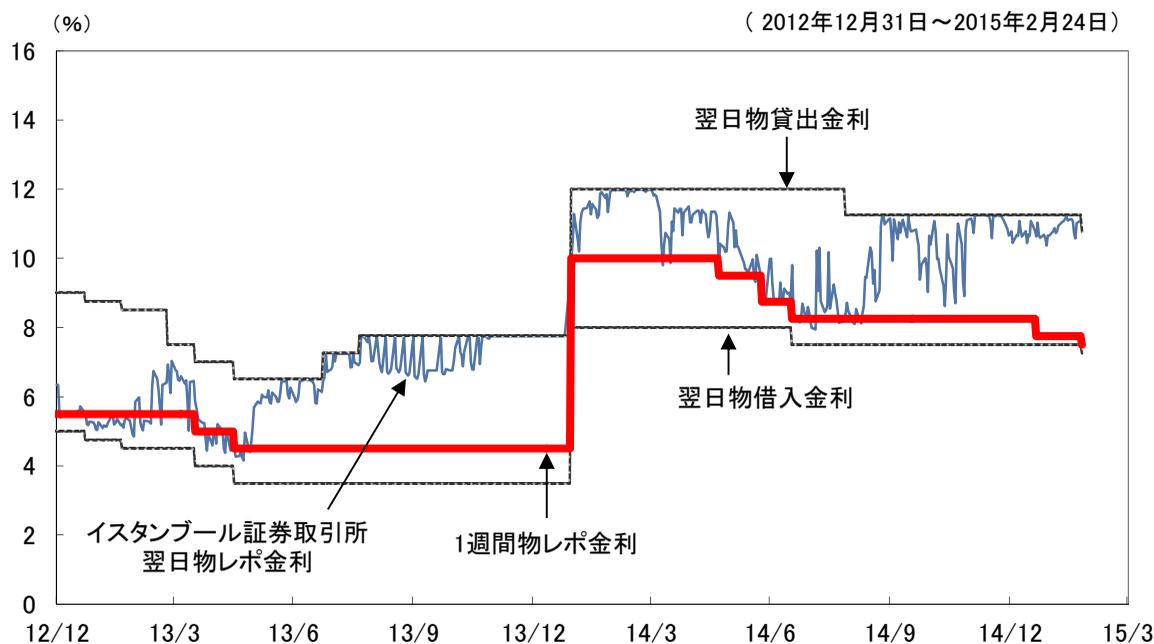
2015年2月25日

<トルコの金融政策：1週間物レポ金利を前回に引き下げ>

トルコ中央銀行は、2月24日（現地、以下同様）に行われた金融政策決定会合で、1週間物レポ金利を0.25%ポイント引き下げ、7.50%としました。また、翌日物貸出金利（コリドー金利上限）は0.50%ポイント引き下げ、翌日物借入金利（コリドー下限金利）については0.25%ポイント引き下げ、それぞれ10.75%、7.25%としました。事前の市場予想は分かれており、1週間物レポ金利をおおむね0.25%～0.50%ポイント引き下げることが見込まれていました。

声明文では、継続的なインフレ率の鈍化のためには慎重な金融政策が必要だとし、食料品価格とエネルギー価格の変動幅の高まりを考慮し、今回の慎重な利下げを決定したとしています。また、今後の金融政策については前回と同様にインフレ見通しの改善次第としています。

政策金利の推移



※イスタンブール証券取引所翌日物レポ金利は2015年2月23日までの数値。

(出所：ブルームバーグ、トルコ中央銀行)

(今後の見通しについては次頁をご覧ください。)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

大和投資信託

Daiwa Asset Management

<今後の見通し>

今回の決定を受けて、ダウトオール首相が利下げは不十分と発言するなど、6月に実施予定の総選挙を控えて政府関係者からの利下げ要求は今後も続くと考えられます。しかし、中央銀行は、現在の金融政策姿勢がインフレ、特にコアインフレと期待インフレに良い影響を与えているとし、インフレの動向を見ながら緩やかに利下げを行うと考えられます。次の注目点としては、3月3日に発表される2月の消費者物価指数が挙げられます。2月はトルコ西部で例年以上の降雪が観測されており、天候要因がどのように食料品価格に影響したかが注目されます。

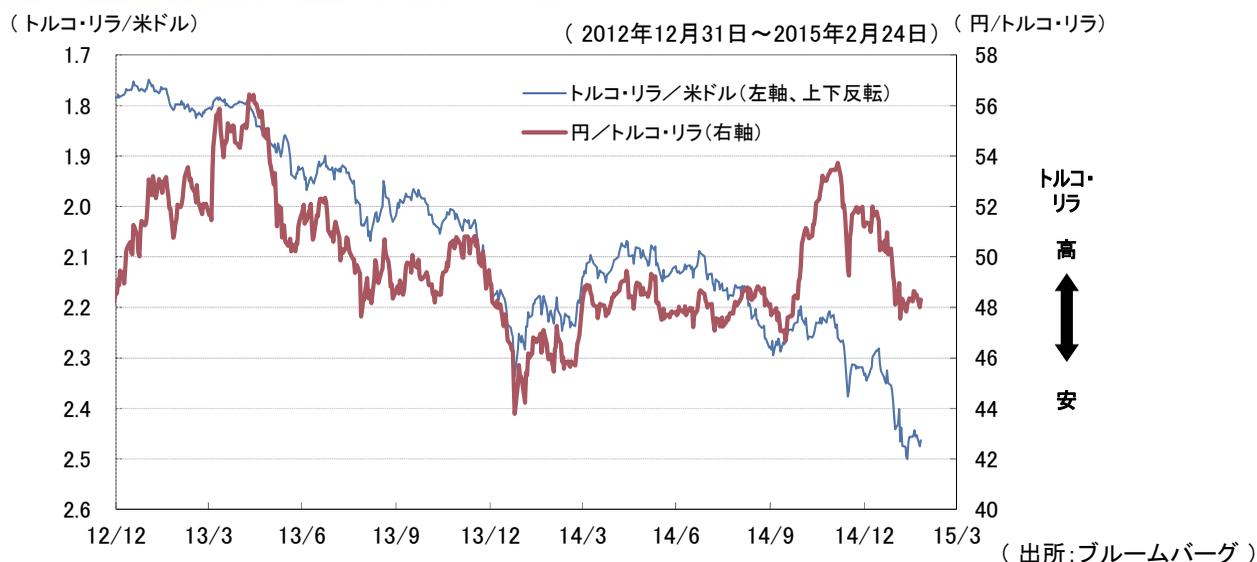
引き続き、トルコの金融市場は米国の金融政策の正常化をめぐる思惑や、隣国シリアやイラクなどの地政学リスクの高まりなど、外部要因の影響を受ける可能性はあります。しかし原油安の恩恵でインフレや経常収支などのファンダメンタルズが改善しやすい環境は当面続くと考えられます。相対的に高い金利水準であることや内需拡大による経済成長が期待できることから、引き続きトルコは魅力的な投資対象だと考えられます。

以上

トルコ2年国債の金利推移



トルコ・リラの為替推移



※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。